

1 パイロットプログラムについて

本道の子どもたちを巡っては、いじめ・不登校の問題や生活リズムの乱れのほか、学力・体力が全国平均より大きく下回る状況が続くなど、多くの課題を抱えています。

こうした状況を踏まえ、道立青少年教育施設（青年の家、少年自然の家）においては、子どもたちを巡る課題の解決につながるような新たな体験活動のプログラムを開発し、道内各地へ普及させることが必要と考え、試験的な取組として「パイロットプログラム」を実施しております。

パイロットプログラムにおいては、子どもたちへの「満足度調査」や体験活動の効果を測定する「IKR調査（※）」を実施しており、プログラムの効果を検証しながら、改善を重ね、完成度を高めています。

※IKR調査

国立青少年教育振興機構が開発した体験活動による教育効果を図る手法のひとつとして、子どもたちの生きる力を測定する調査。青少年教育施設の主催事業の成果を測定する指標としてより手軽に測定できる「IKR評定用紙（簡易版）」を用いて体験活動の開始時と終了時に調査を実施し、28項目の調査項目の結果から心理的社会能力、徳育的能力、身体的能力の3つの上位能力及び積極性、視野・判断など14の低位能力で「生きる力」を測定することができる。

2 プログラムの効果についての考察

(1) プログラム全般に見られる顕著な効果

ア 自然体験活動が子どもたちの積極性を高める

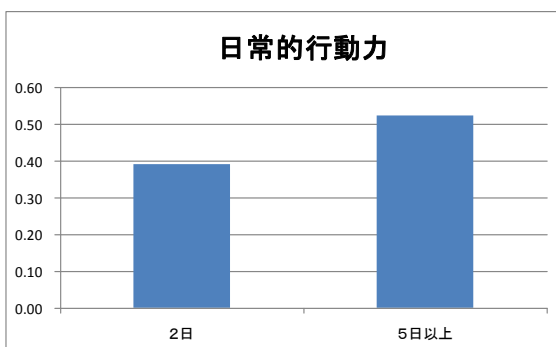
長距離ウォーキングや野外炊事などの自然体験活動を取り入れているプログラムにおいて、IKR調査の「積極性」に関する項目のポイントの増加が大きくなっています。

取り入れているアクティビティとポイントの増加(例)

- ネイチャーゲーム・・・0.70ptの増加
- 野外炊事・・・0.85ptの増加
- 長距離ウォーキング・・・0.90ptの増加

イ 長期(5日以上)の自然体験活動や宿泊体験活動が子どもたちの生活リズムの定着に効果がある

1泊2日よりも4泊5日以上プログラムにおいて、IKR調査の「日常的行動力」に関する項目のポイントの増加が大きくなっています。



- 1泊2日・・・0.39ptの増加
- 4泊5日以上・・・0.53ptの増加
- ・IKR調査の「基本的生活習慣」の項目
「早寝早起きである」
「からだを動かしても疲れにくい」

ウ 野外スポーツや雪遊びなどの、自然環境の中で体を動かすアクティビティが子どもたちの「自然への関心」を高める

雪遊び、スノートレッキング、サイクリング、カヌーなどのアクティビティを取り入れたプログラムにおいて、IKR調査の「自然への関心」に関する項目のポイントの増加が大きくなっています。

取り入れているアクティビティとポイントの増加(例)
○雪遊び ・・・ <u>0.50ptの増加</u>
○スノートレッキング ・・・ <u>0.60ptの増加</u>
○サイクリング ・・・ <u>0.60ptの増加</u>
・ IKR調査の「自然への関心」の項目 「花や風景などの美しいものに感動できる」、「季節の変化を感じ取ることができる」

(2) 個別のプログラムに見られる顕著な効果

ア 家庭教育や子育て支援関連プログラムの満足度が高い

事業の終了直後、参加者に対して、

- ①体験したことや活動に満足している
- ②教えてくれた人がわかりやすく、親切だった
- ③新しい発見や気づくことがたくさんあった
- ④友達にも参加をすすめてみたい

の4項目について「とてもよくあてはまる」「よくあてはまる」「ふつう」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」で回答してもらったところ、家庭教育や子育て支援に関する事業については、全項目ともに、全員が「とてもよくあてはまる」または「よくあてはまる」と回答しており、高い満足度でした。

また、子どもが調理活動、保護者がワークショップなど、親子を分離したプログラムの構成をすることで、IKR調査の「積極性」や「判断力」に関する項目のポイントの増加が大きくなっています。

○「積極性」 ・・・ <u>0.60ptの増加</u>
○「判断力」 ・・・ <u>0.50ptの増加</u>
・ IKR調査の「積極性」の項目 「自分からすすんで何でもやる」、「前向きに物事を考えられる」
「視野・判断」の項目 「先を見通して自分で計画を立てられる」、「自分で問題点や課題を見つけることができる」

イ 異文化・国際理解を図るプログラムにおいて、外国人と直接触れ合う、外国の文化に触れるなどのアクティビティが子どもたちの「交友・協調」の力を高める

異文化・国際理解に関する事業のプログラムにおいて、外国人とのコミュニケーションゲームや外国の料理を作るなどのアクティビティを取り入れた場合、IKR調査の「交友・協調」に関する項目のポイントの増加が大きくなっています。

○「交友・協調」 ・・・ <u>0.55ptの増加</u>
・ IKR調査の「交友・協調」の項目 「多くの人に好かれている」、「だれとでも仲よくできる」

3 今後の道立青少年教育施設の取組

(1) 顕在的なニーズがあるテーマを重点化

- ア 幼児や保護者が家族で気軽に参加できるプログラムの開発・実施
- イ 異文化・国際理解、学習習慣の定着など定員充足率が高いプログラムの開発・実施

(2) 潜在的なニーズに対応したプログラムの開発・実施

- ア 多くのデータを収集するための対照実験的なプログラムの開発・実施
- イ 小学校低学年対象の宿泊体験を伴うプログラムの開発・実施
- ウ 中高校生を対象とした自然体験を伴うプログラムの開発・実施

(3) 多様な組織・団体と連携した効果的なプログラムの開発と試行的な実施、成果の普及

- ア 幼稚園や保育園(所)のお泊まり会との連携による事業の企画・実施
- イ 市町村立青少年教育施設や市町村教育委員会の青少年事業との共催による事業の企画・実施

(4) 体験活動に関する情報の周知・普及のための仕組みの整備（青年の家）

- ア 市町村立施設での活用や道立青少年施設の出前による提供を目的とした各種プログラムや、アクティビティを網羅した「レシピ集」の作成
- イ 青少年を対象とした道内の体験活動やボランティア活動の情報を提供する「体験活動ボランティアセンターホームページ」の充実
- ウ FacebookなどSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した周知

(5) 効果を検証するための評価方法の検討（青年の家）

- ア 国立青少年教育施設とのさらなる連携（I K R調査では測定が難しい事業の評価方法）
- イ 参加者に対する長期的な追跡調査

